

W B C 検査結果概要

- ・ 相馬市でのW B Cによる被ばく検診結果（8）

相馬市でのWBCによる被ばく検診結果(8)

結果概要

平成30年8月1日

1. 検査時期：平成29年4月1日から平成30年3月31日まで

2. 受診者：相馬市民 3,911人（大人1,226人、子供 2,685人）

3. 検査機器：キャンベラ社製ホールボディーカウンター（相馬中央病院、公立相馬総合病院）

を使用し、セシウム134および137に由来する放射線を測定しました。機器の測定検出限界は、約4Bq/kg（250Bq/body）です。今回の結果は、相馬中央病院および公立相馬総合病院での測定結果をまとめて集計しています。子供の集計には、2017年9月から12月に行われた学校検診での検査結果も含めています。

4. 検査結果の説明

①図1-1、1-2：今回の測定で放射性セシウムが検出された割合は、成人および高校生で5名（0.4%）、20Bq/kg以上を検出した方は0名でした。一方、子供の検出者は0名でした。セシウムが検出された方は、野生のキノコや山菜を食したことが原因と考えられます。

②図2-1、2-2：平成24年6月から平成30年3月の月別受診者数とセシウムの検出率の推移をグラフで表しています。

③図3-1、3-2及び3-3：放射性セシウムの年齢別検出割合は70代が1.56%と一番高く、次いで高いのが80代の1.32%でした。食生活の違いおよび体内に取り込んだ放射性セシウムの排泄速度（生物学的半減期）の差などが影響していると考えられます。

④図4-1、4-2及び4-3：アンケートの結果、内部被ばくの原因として気になる食材・チリやほこりの吸入についてをみると、子供のほうが大人にくらべてやや気にしている割合が多いことがわかりました。中でも魚は不安度がやや高い傾向にありました。しかしながら、2012年度に比べて不安度は低くなる傾向にあります。

⑤図5-1及び5-2：食材は、多くの方がスーパーで流通しているものや、地元産であっても検査を経たものを摂取されており、未検査の食品の摂取を続けている方は少ない状況です。これは子供と大人で傾向は大きく変わりません。

⑥図6-1及び6-2：水に関しては、飲料水は約半数がミネラルウォーターを使用されておられるのに対し、調理水は市水道を使用されている方が多い傾向にあります。これは子供と大人で傾向は大きく変わりません。

⑦図7-1及び7-2：多くの方がWBCによる検査継続を引き続き希望されていることがわかりました。相馬市では、今後もWBCでの測定業務を続けていきますので、自身の健康を守るために積極的に受診するようにしてください。

【結果の総括】

2017年4月から2018年3月末までの内部被ばく検査集計をご報告致します。

検査月別のセシウム検出率は、大人は低下傾向、子供も非常に低い状況を維持しています。国の定める1mSv/年の被ばく量に比べ、2桁以上低い値を維持しています。現在の相馬市での生活を続ける上での慢性的な内部被ばくが問題になるレベルにはありません。

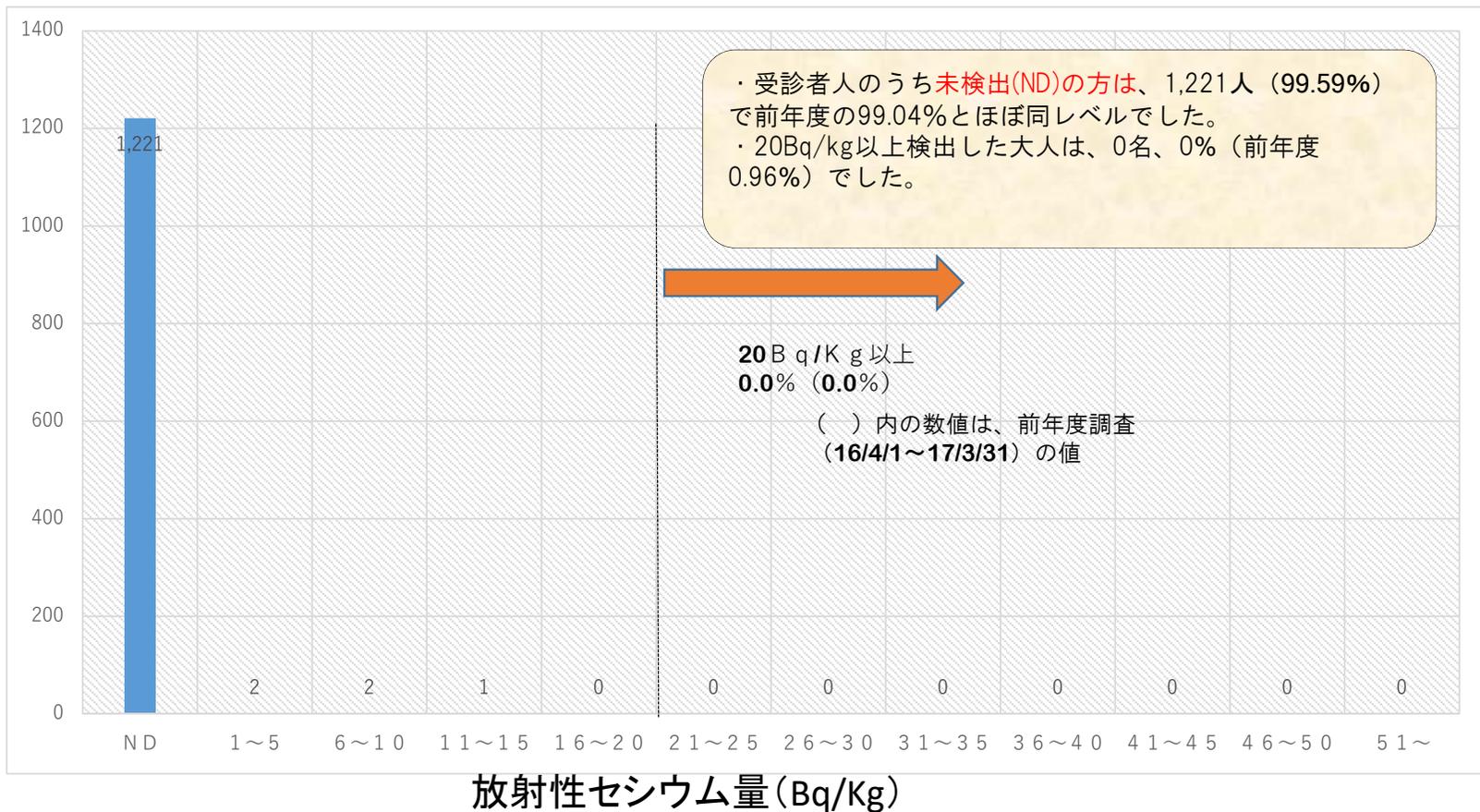
産地を選ばずとも、流通している食品の汚染度が抑えられており、地元産の検査済みの食品・水道水について安全性が十分に高いことが内部被ばく検査からも裏付けられています。この状況は震災後長期にわたって維持されています。

内部被ばくの値は低い状況を維持しておりますが、今後も継続的な検査や食品検査の徹底いたします。市では、各種放射線検査の拡充、食品検査結果の迅速な公表・注意喚起に努めるとともに、継続的な検査、健康フォローの強化を行っていきたいと考えております。

相馬市長 立谷 秀清

図 1-1

セシウム134、137の体内放射能量別の被験者数
 通期17/4/1～18/3/31 (n=1,226) 大人(高校生以上)



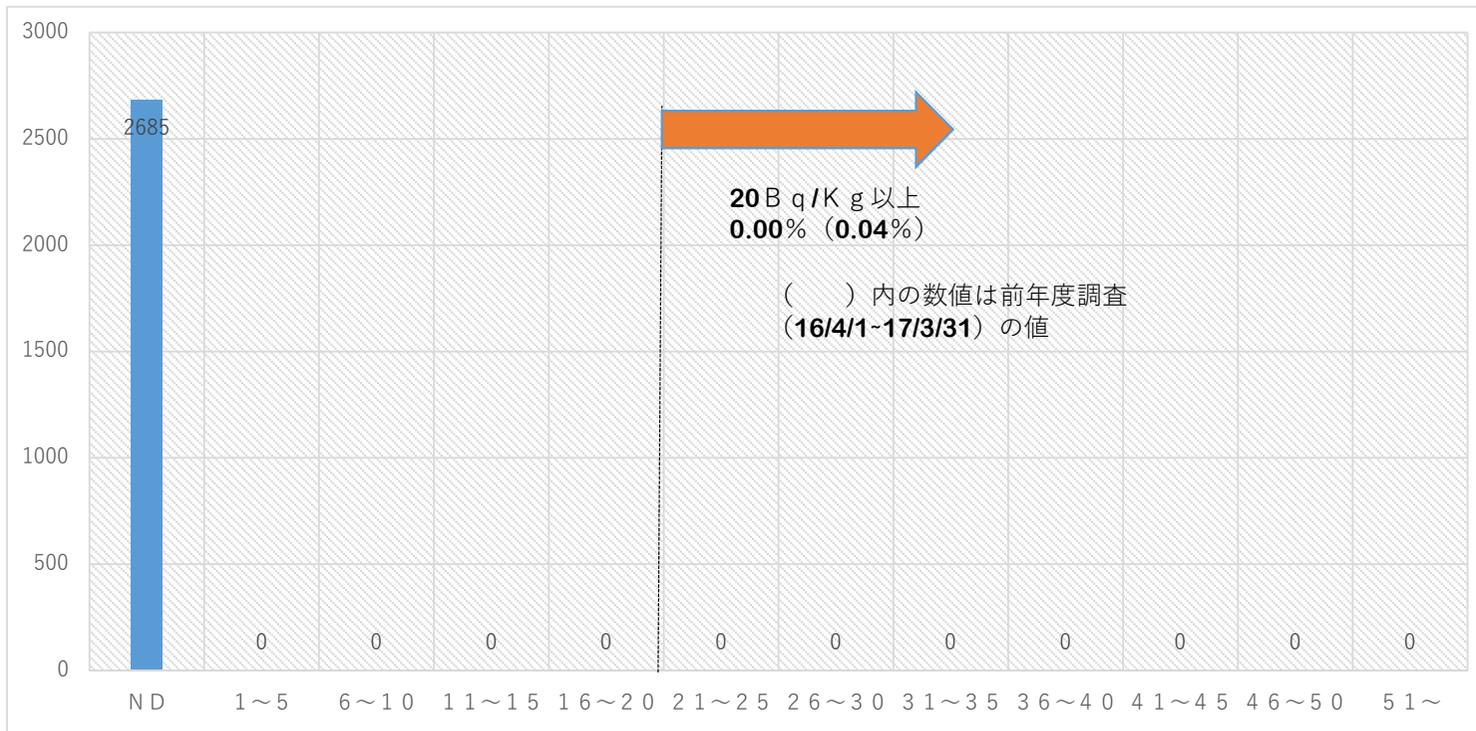
ND	1~5	6~10	11~15	16~20	21~25	26~30	31~35	36~40	41~45	46~50	51~
1,221	2	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0
99.59%	0.16%	0.16%	0.08%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%

検出限界は250 Bq/body (体重60 Kgの方で4 Bq/Kg程度) です。

図 1-2

セシウム134、137の体内放射能量別の被験者数 通期17/4/1～18/3/31 (n=2,685) 子供(小学生以上中学生以下)

- ・受診者のうち未検出(ND)の方は、2,685人(100.00%)で20Bq/kg以上検出した子供は、0名でした。
- ・今回の結果には2017年9月1日から12月13日まで行われた学校検診も含まれています。



放射性セシウム量(Bq/Kg)

ND	1～5	6～10	11～15	16～20	21～25	26～30	31～35	36～40	41～45	46～50	51～
2685	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
100.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%

検出限界は250 Bq/body (体重60 Kgの方で4 Bq/Kg程度) です。

図 2-1

月別受診者数の推移

平成24年6月～平成30年3月

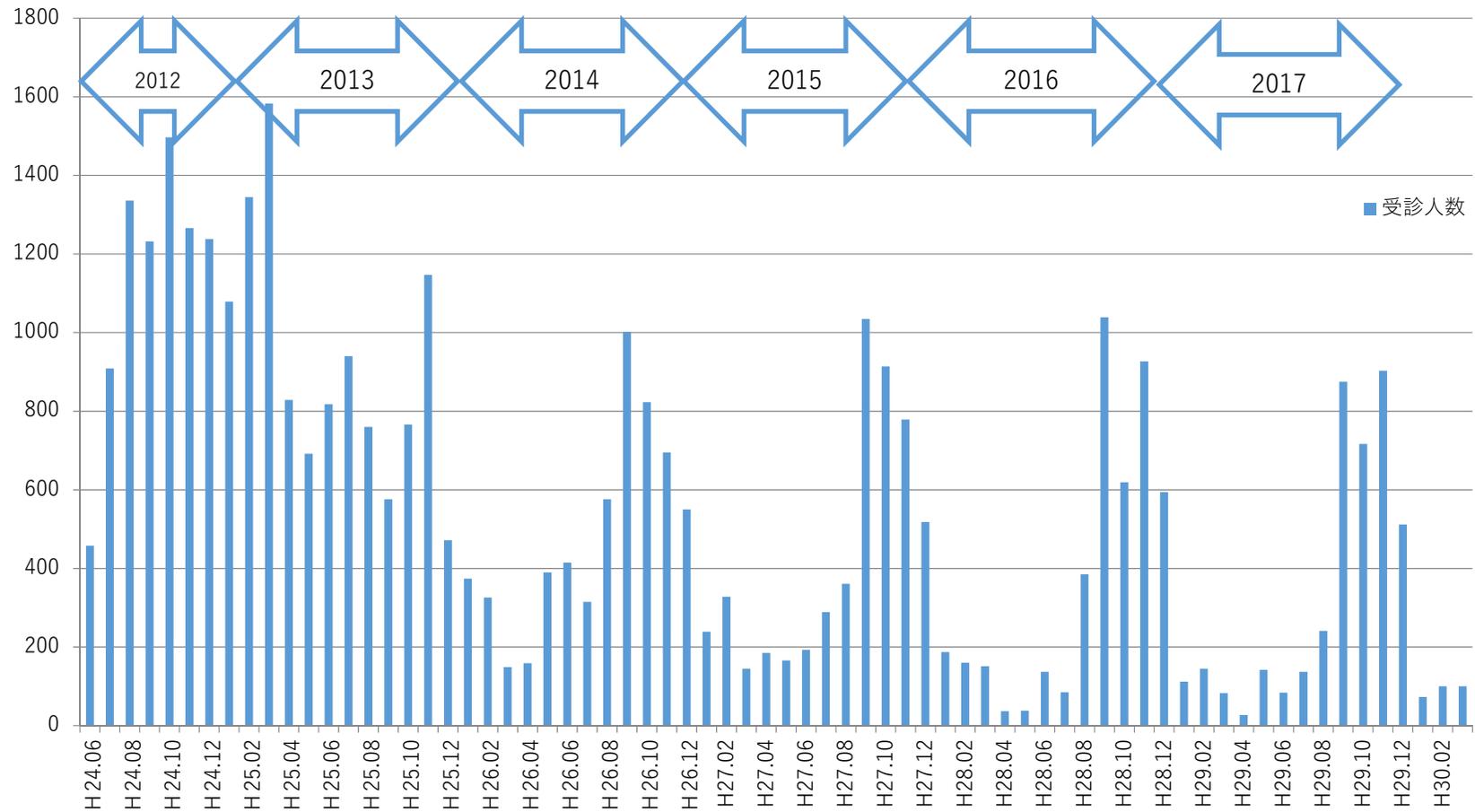
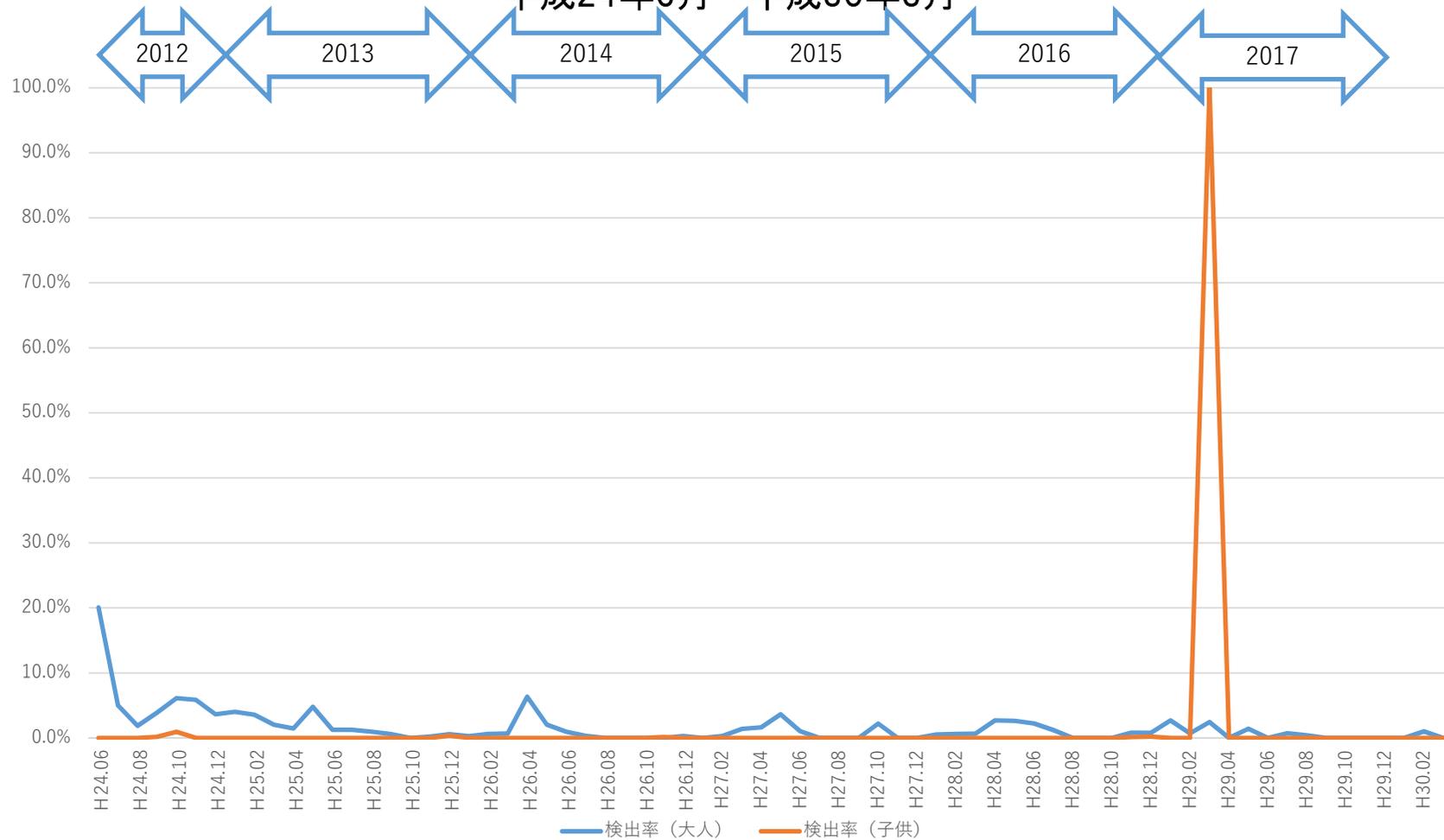


図 2-2

月別セシウムの検出率の推移

一般+学校検診

平成24年6月～平成30年3月



※検出率は、セシウム134またはセシウム137のいずれか、または両方が検出限界以上の場合を「検出」としています。

※大人は高校生以上、子供は小学生以上中学生以下と定義しています。

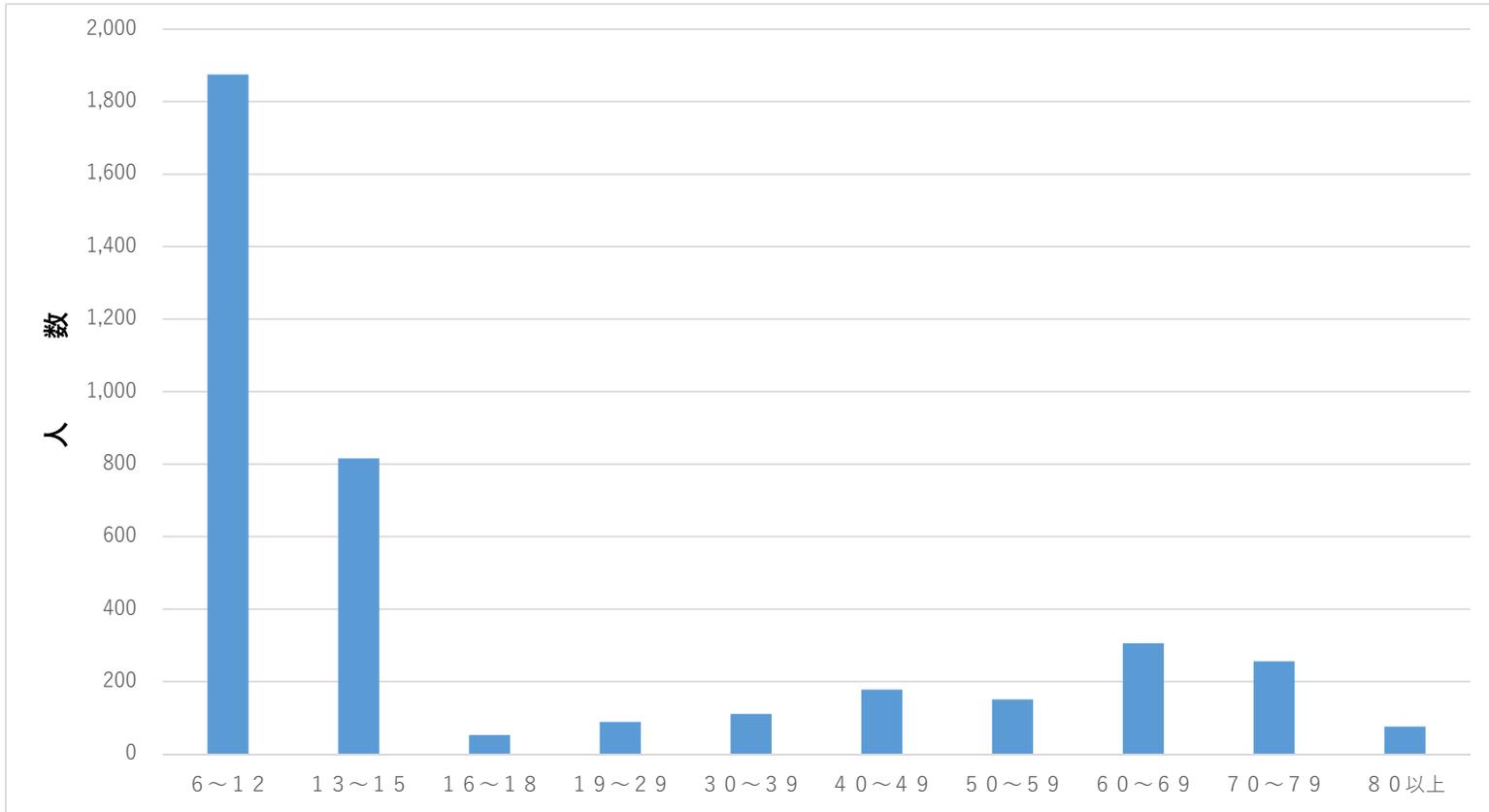
※H29.03の100%について、受診者1名に対して検出者1名だったためです。

図 3-1

年齢別受診者数

平成29年4月1日～平成30年3月31日

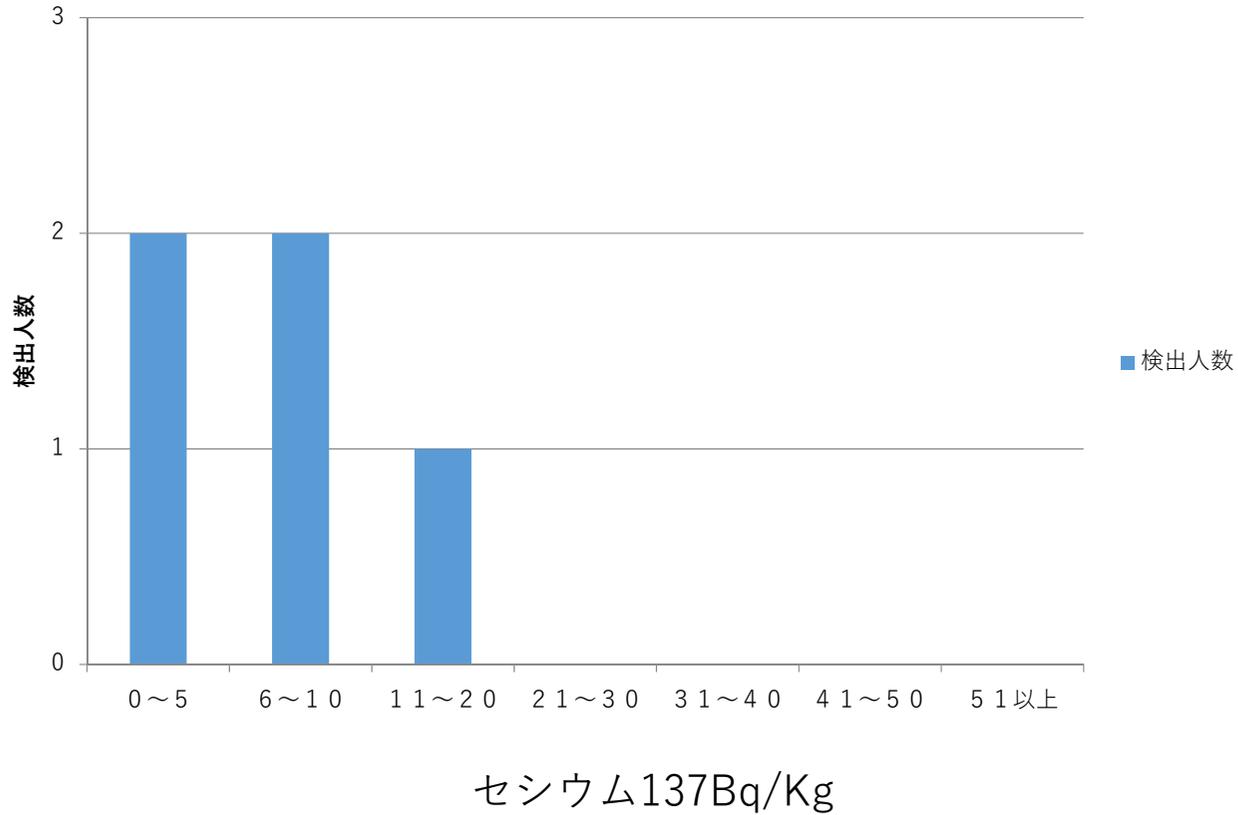
一般+学校検診



年齢区分	6～12	13～15	16～18	19～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80以上
受診者数	1,875	816	53	89	111	178	151	306	256	76

図 3-3

セシウム137検出者詳細 n=3,911



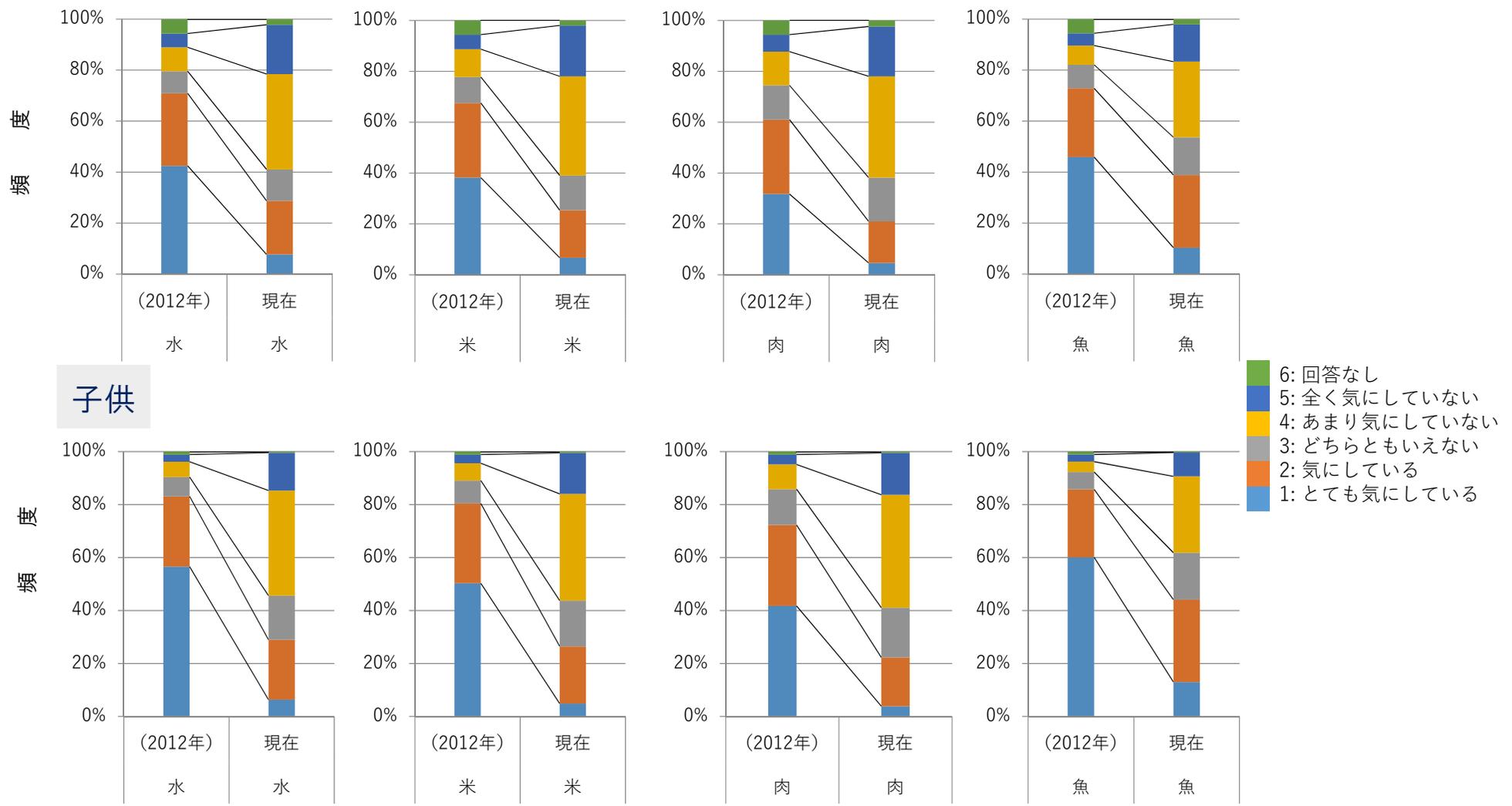
セシウム137Bq/Kg	0~5	6~10	11~20	21~30	31~40	41~50	51以上
検出人数	2	2	1				

図 4-1

一般+学校検診

大人

内部被ばくの原因として気になる食材



子供は小中学生（6歳から15歳）、大人は高校生（16歳以上）以上です。

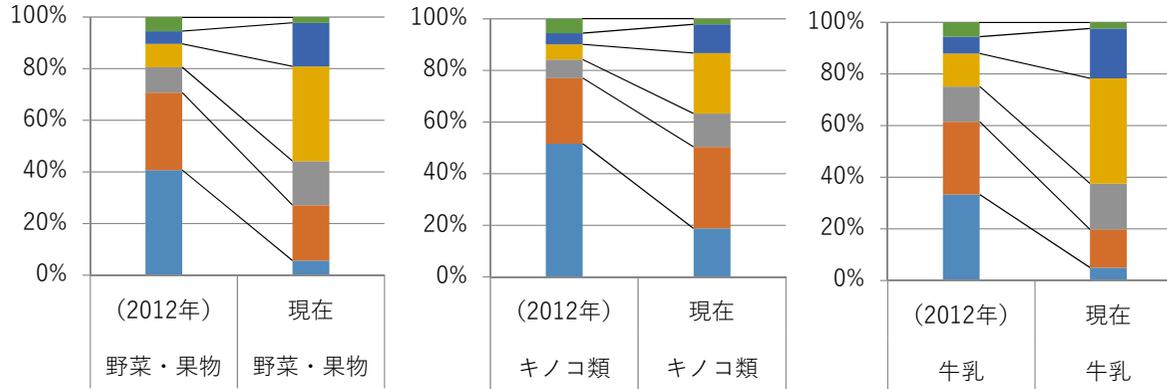
図 4-2

一般+学校検診

内部被ばくの原因として気になる食材

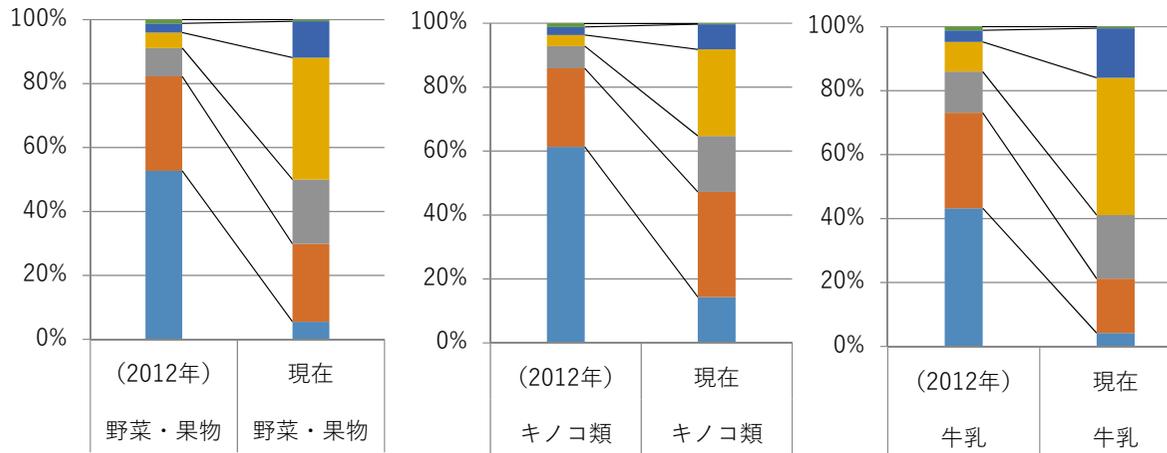
大人

頻度



子供

頻度



- 6: 回答なし
- 5: 全く気にしていない
- 4: あまり気にしていない
- 3: どちらともいえない
- 2: 気にしている
- 1: とても気にしている

図 5-1

一般+学校検診

食べ物の調達方法

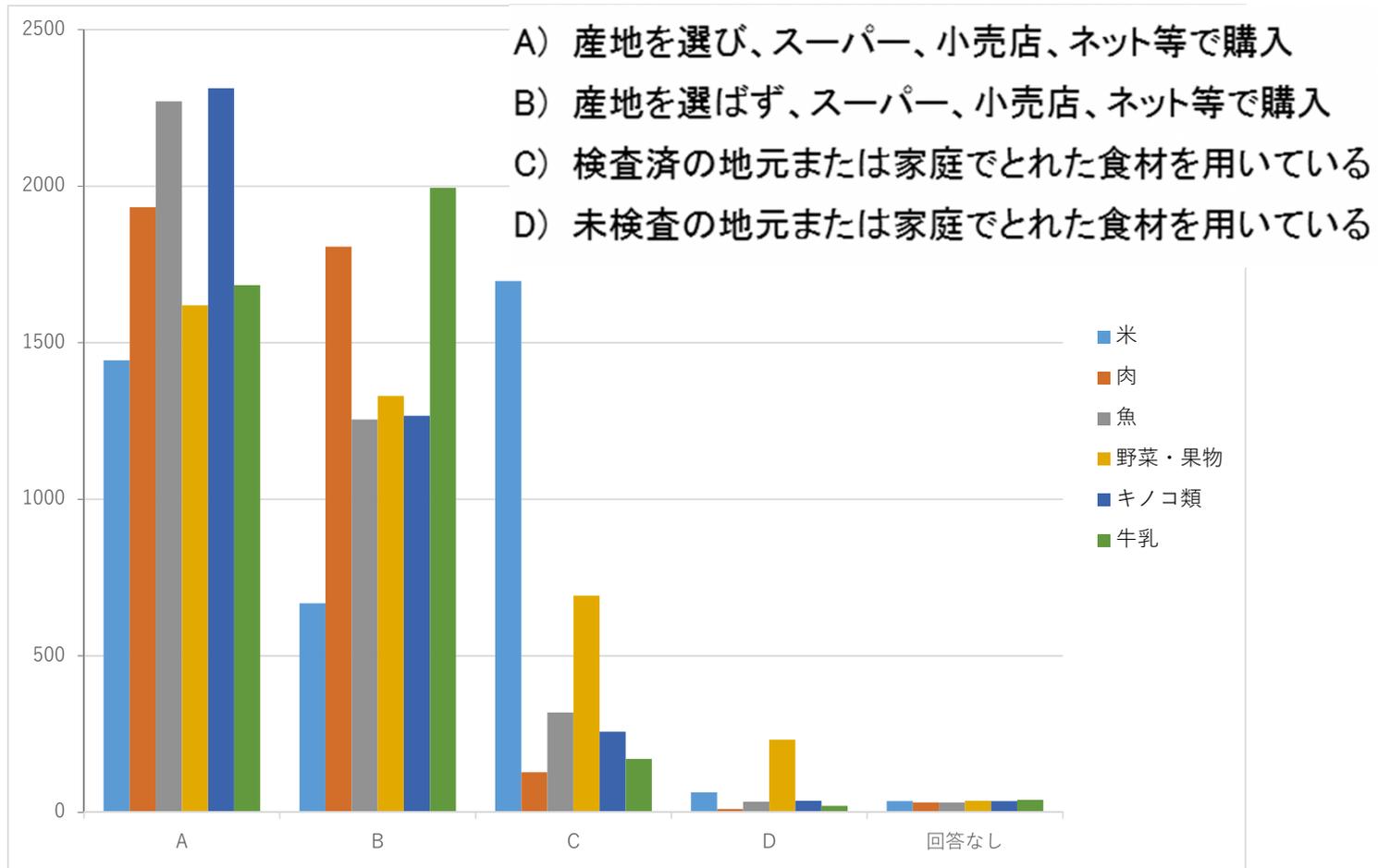


図 5-2

食べ物の調達方法

学校検診のみ

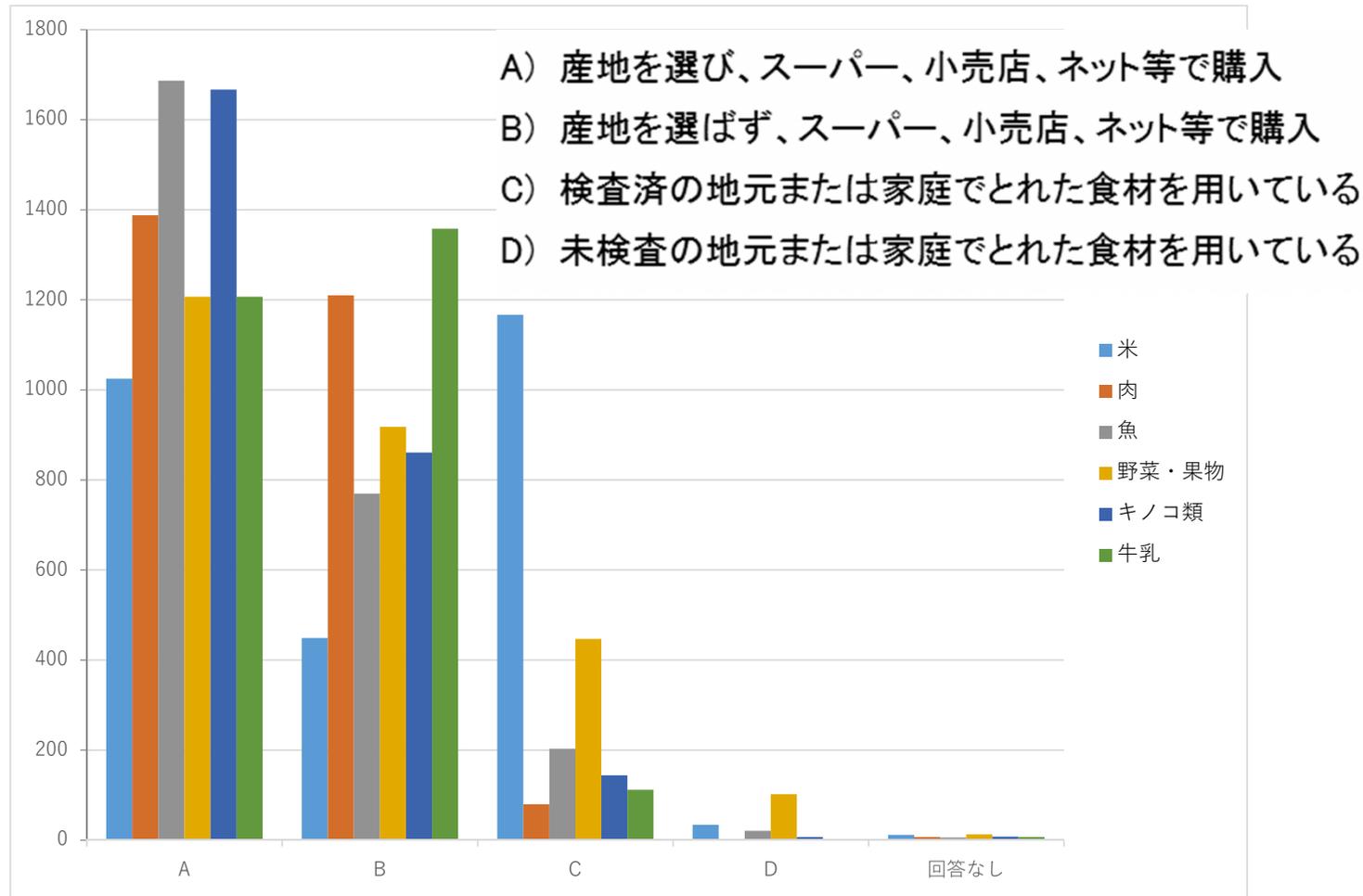


図 6-1

自宅の飲料&調理水の種類

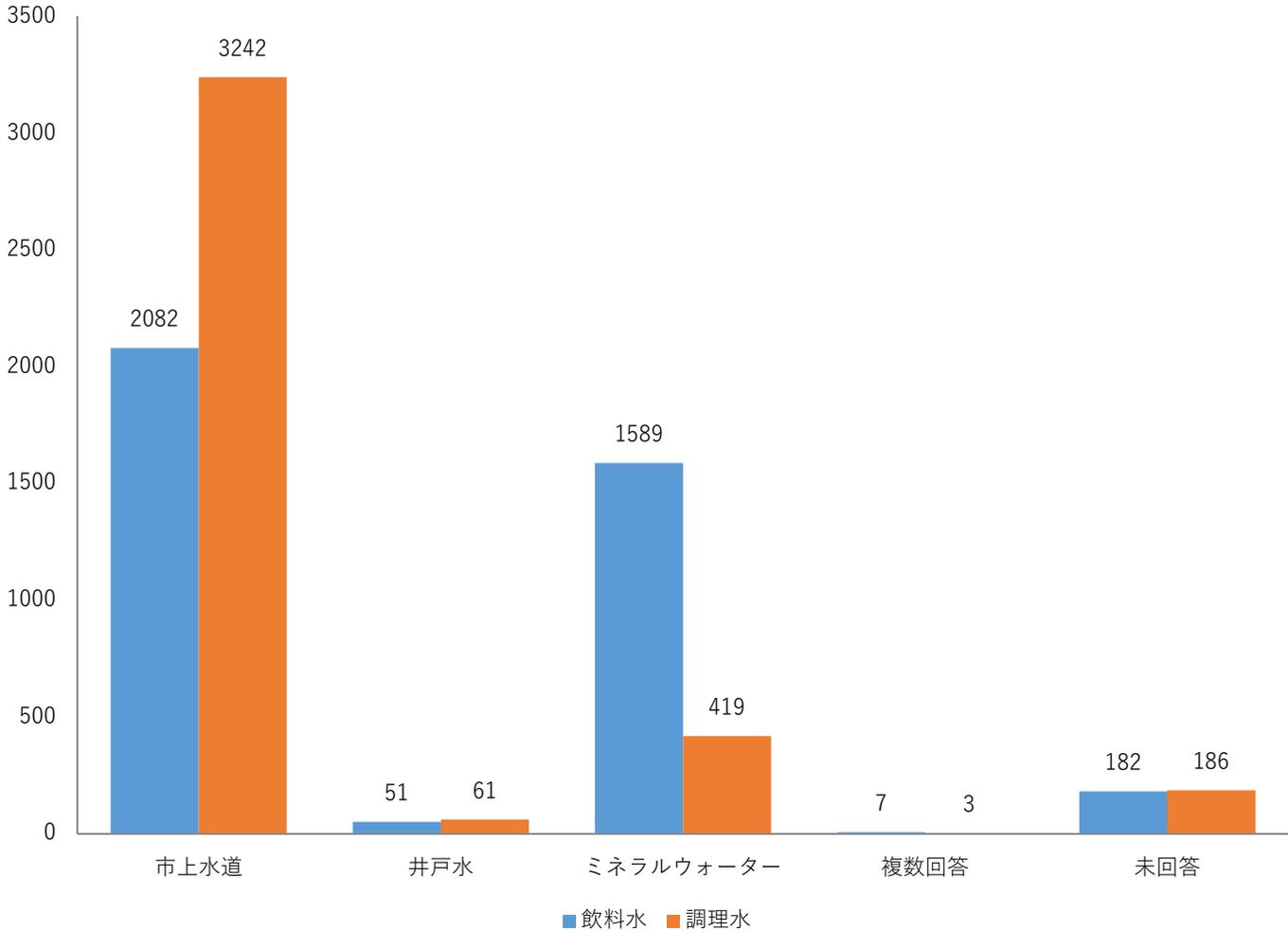


図 6-2

自宅の飲料 & 調理水の種類

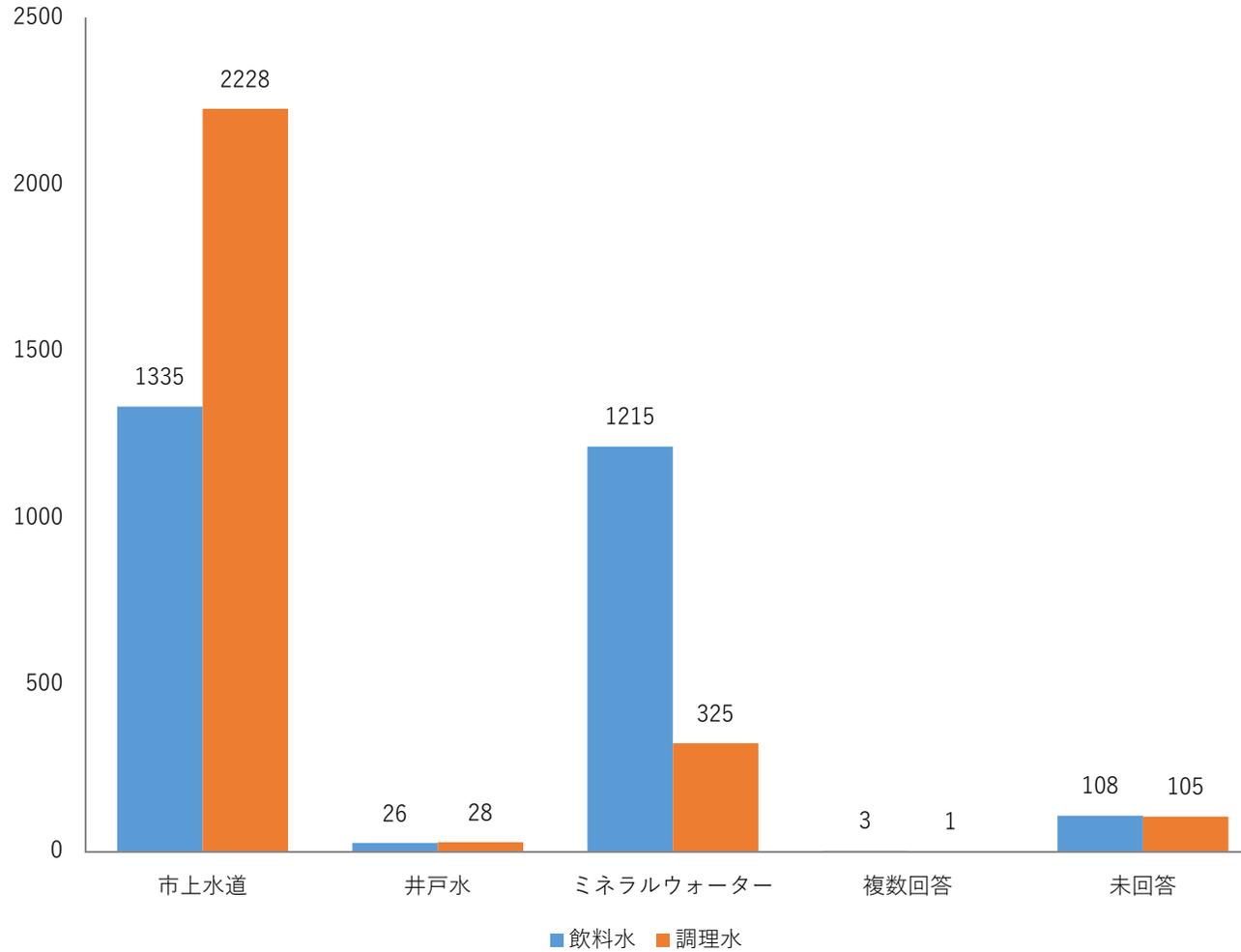


図 7-1

今後のWBC検診について

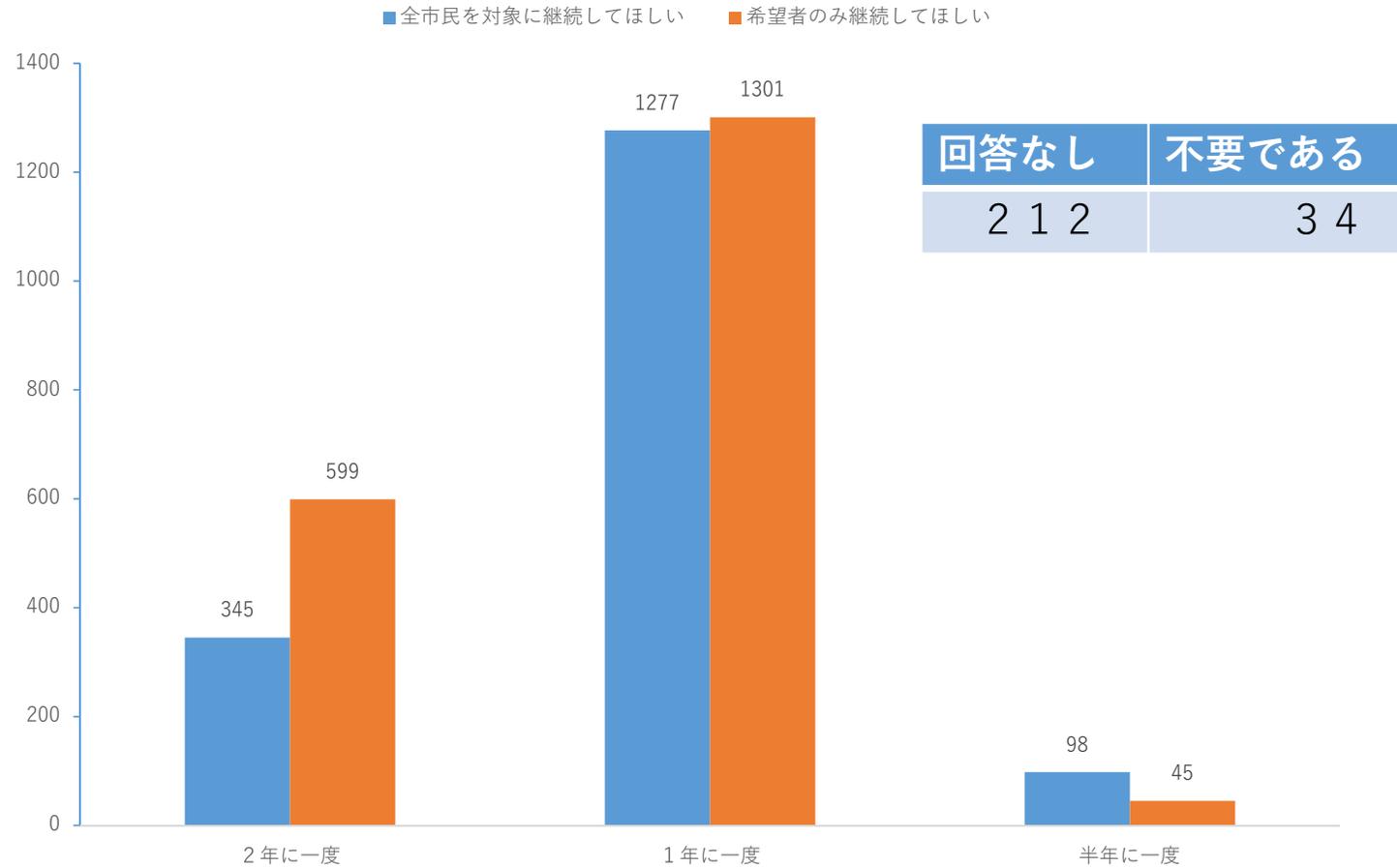


図 7-2

今後のWBC検診について

